

### 鳥類の黄色腫

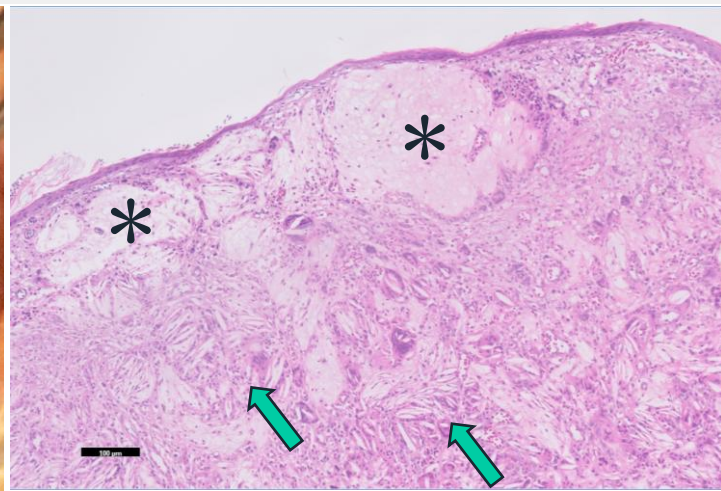


図 1. オカメインコ, 右内股部腫瘍, 肉眼写真。周囲組織と境界明瞭な黄白色腫瘍を認める。腫瘍表層には自壊による出血が見られる。(写真提供: 滝沢犬猫鳥の病院 様)

図 2. セキセイインコ, 左側翼部腫瘍, 組織写真, 低倍図。真皮~皮下組織においてびまん性の細胞浸潤が認められる。浸潤細胞間には細胞質外の脂質沈着巣(\*)や針状のコレステリン裂隙(緑矢印)が見られる。

黄色腫(xanthoma)は、脂質を含んだマクロファージやコレステロールの蓄積に起因する非腫瘍性の増殖性病変です。この病変は特にセキセイインコ、オカメインコ、キジ目鳥類の皮下(一般的には翼部)や体腔内に生じます。黄色腫の発生には、脂質の多い食事、高コレステロール血症、持続発情などが関与していることがあります。

肉眼的に、黄色腫は境界明瞭、単発~多発性の黄白色腫瘍として認識され、しばしば表層に自壊を伴います(図1)。組織学的には、細胞外の脂質沈着巣やコレステリン裂隙を中心とした、泡沫状マクロファージや多核巨細胞の浸潤が見られ、時に線維化や偽好酸球性炎症を伴います(図2,3)。一般的に、黄色腫の外科的な完全切除後の予後は良好ですが、不完全切除では再発が起こることがあり、他部位に別病変が形成されることもあります。また、皮膚に黄色腫が形成された個体において、稀に内臓または骨髄に黄色腫が発生することもあります。

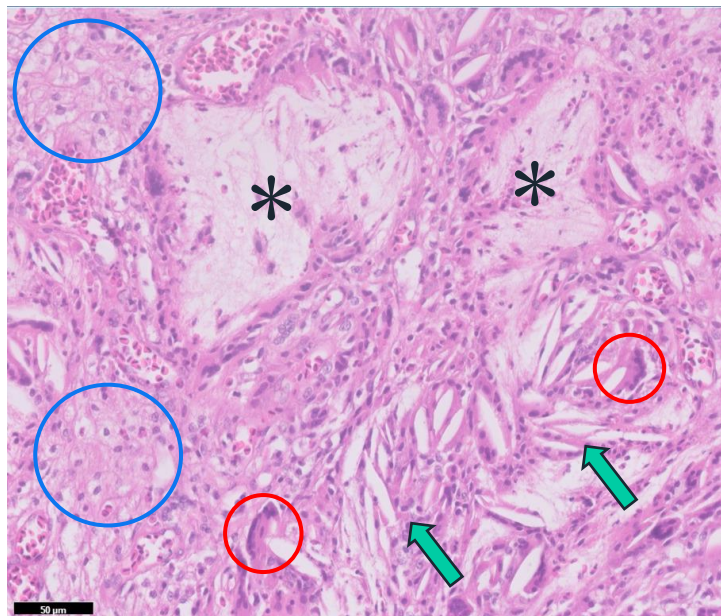


図 3. セキセイインコ, 左側翼部腫瘍, 組織写真, 高倍図。細胞質外の脂質沈着巣(\*)やコレステリン裂隙(緑矢印)の周囲に、泡沫状の細胞質を有するマクロファージ(青丸)や多核巨細胞(赤丸)の浸潤を認める。

#### 診断医からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

「今月のエキゾチック症例」を始めた時から、早く鳥の黄色腫について書かなくては！と思っていましたが、気が付けば初回から早2年が経っていました。今後も細く長くエキゾチック症例集を続けていきたいですね。さて、今回取り上げた黄色腫は臨床では非常によく遭遇する鳥類の体表腫瘍の一つだと思います。イヌやネコでも稀に見ますが、やはり鳥類での発生が最も多い印象ですね。典型的な組織像を選びましたので、この機会に黄色腫の組織学的なイメージを膨らませてもらえればと思います。



診断医: 平島 瑞希  
DVM, PhD, DACVP,  
DJCVF

#### 参考文献

1. Pathology of pet and aviary birds. 2024. Wiley Blackwell.